

羅針盤

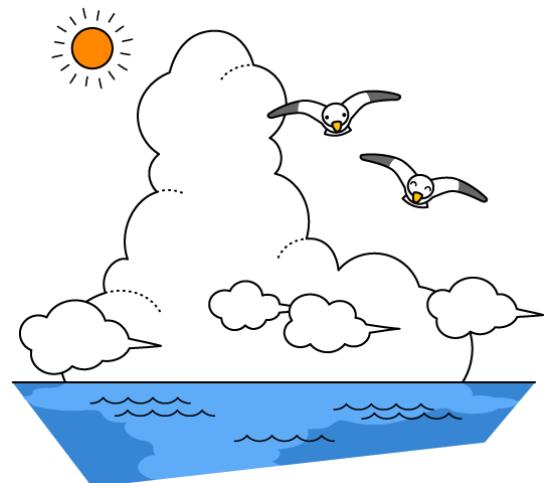


第 15 号

令和7年8月25日(月)

◆ 「人に礼法あれば悪事生ぜず」

「人に礼法あれば悪事生ぜず」これは、江戸時代に活躍した儒学者の貝原益軒（かいばらえきん）が残した言葉で、「人の礼法あるは水の堤防あるがごとし。水に堤防あれば氾濫の害なく、人に礼法あれば悪事生ぜず。」から引用されたものです。水に堤防があれば、水による氾濫を防ぐことができるよう、人間にもそうした堤防があれば、問題が起きるのを未然に防ぐことができることを意味しており、そのためには、互いに敬い、自他ともに成長する気持ちを礼法によって表現し、謙虚な言動やマナーを守った行動が日頃から不可欠であることを教えてくれています。「礼法」それは、人と人とをつなぐより良い人間関係を築くための第一歩であることを意味しているということです。1学期の終業式でも話をしましたが、「おはよう」と声をかけられたら、「おはよう」と返す「挨拶」も、より良い人間関係をつくりあげていくためには、とても大事なことです。「親しき



仲にも礼儀あり」といった言葉の意味をしっかりと理解し、これまでと同様に当たり前のことが当たり前にできる人として、2学期も有意義な学校生活を過ごしてもらいたいと思います。生徒の皆さんの笑顔あふれる学校が、誰もが安心して過ごせる学校となっていきます。明るく交わされる笑顔の挨拶で、周りの人たちもさわやかな気持ちで過ごすことができる一日となるはずです。そういうことを積み重ねていくことが、すぐには結果としてあらわれなくても、常に「高い志」を持ちながら、一人ひとりが持つ「夢の実現」へつながっていくことだと信じています。

◆ 「人間関係のあり方」

学校生活を有意義に過ごすためには、「人間関係のあり方」といったものを上手に構築していくことが重要なことです。そのためには、「他人を尊重（Respect）し、自分自身をより良いものへと更新（Renew）する。そして、その姿勢を維持（Retain）して、忘れない（Remember）ようにする。」といったことが大事なことのように思います。自分や目の前にいる相手のことだけで手一杯になるのではなくて、自分を含めたあらゆる人に対して気配りができる人になることで、より良い人間関係が構築されていくものと考えます。生徒の皆さん一人ひとりが、今の自分自身が持つ課題と向き合っていくことで、学校生活を通じて協力関係にある仲間のことを思い、ともに学校生活を過ごす友だちからたくさんことを学び、自らの成長を求め、地道な努力を続けることが、何よりも大切なこととなるはずです。諦（あきら）めない気持ちを持ち続けて、自身の力量を日頃から「アップデートしていくこと」が大事なことであることに気づき、何よりも生徒の皆さん全員の力で、より良い城陽中学校をつくりあげいくことがとても大事なことです。日々の学校生活を振り返ったときに、その結果が表れることができるように、しっかりと努力を積み重ねていきましょう。